

研究タイトル：

リテリングが学生に及ぼす効果の検証



氏名：	遠藤 香菜子／ENDO Kanako	E-mail：	k-endo@yonago-k.ac.jp
職名：	助教	学位：	
所属学会・協会：	全国高等専門学校英語教育学会，英語授業研究学会		
キーワード：	英語教育学，4技能統合型授業，リテリング，音読		
技術相談 提供可能技術：	・外部英語検定試験の対策（TOEIC，実用英語技能検定試験，GTEC 等） ・英語スピーチ指導		

研究内容： 学生の習熟度に応じたリテリング活動の効果の検証

現在日本では、小中高において大規模な教育改革が進められており、その1つに英語教育改革があります。英語を使う力を伸ばすために、「聞く」「読む」「話す」「書く」といった4技能の強化がさらに重要となってきます。2022年度より高等学校において年次進行で実施される新学習指導要領では、従来の4技能は4技能5領域に変更されており、「話すこと」に関しては、「やりとり」と「発表」に区別されています。今後の英語の授業では、5つの領域別だけでなく複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を充実させ、学習者がインプットした内容をアウトプットする機会を増やしていくことによって、語彙や文法の着実な定着をはかり、これまでの課題であった日本人英語学習者の「話す力」「書く力」を伸ばしていくことが大切であると言えます。私はそのための効果的な指導方法について研究を行っています。

近年、統合型の言語活動（「聞いたことについて書く」「読んだことについて書く」等）が英語の授業で取り入れられるようになりました。私はその1つであるリテリング（retelling）活動について現在研究しています。この活動は、読んだり聞いたりした内容について、自分の言葉で第三者に伝える活動です。教科書の本文を読んだ後で、イラストや写真、キーワードが載っているシートを見ながら、自分の言葉で書かれている内容について話します。本文で出てきた単語や表現を実際に使用することや、今までに習得した語彙も使いながら話すことで、語彙の幅を広げることが期待されています。また、学習者のスピーキングに与える影響としては、複数の研究で流暢さが伸長したことが確認されており、2021年度に本校で行った研究では、前期で継続的にリテリング活動を行った結果、学生の1分間あたりの発話語数（WPM）が大幅に上昇したことが確認されました。

現在は、リテリング活動を継続的に行うことで学生の発話内容がどのように変化するかというテーマで、録音した発話を分析するという研究に取り組んでいます。学生の習熟度に応じてリテリング活動がもたらす効果に差があるのか、どの層に最も効果があると言えるのか、明らかにしたいと考えています。

担当科目	英語総合Ⅱ，英語総合演習
過去の実績	国際バカロレア先進校視察「世界基準の教育を目指して」(2013)
近年の業績 (研究・教育論文、特許含む)	・Microsoft Teams の Reading Progress を活用した音読課題の試み Introducing an Assignment Using Reading Progress on Microsoft Teams(2023) ・米子高専の英語授業におけるリテリング活動の実践―教科書本文を活用して― A Practice of Retelling Activities in English Classes at Yonago Kosen:Through Using Passages in the Textbook(2022) ・文学作品『不思議の国のアリス』を中等教育にどう生かすか The Ways of Using Alice's Adventures in Wonderland in Secondary Education (2008)